

FM バックキャスト研修レポート
東北大学病院

研修期間：2022 年 7 月 25 日（月）～29 日（金）

未来型医療卓越プログラム
第 4 期候補生
D グループ

【研修前の知識】

医療現場での実務経験がある者もいれば全く異なるバックグラウンドを持つ者もいた。デザイン思考については事前オリエンテーションで学んだ程度のレベルの知識しかもっていなかった。血液浄化部は、主に透析患者を対象にしている。

【研修の目的と達成目標】

デザイン思考、バックキャスト思考を学び現場観察を行って医療現場の課題を抽出しニーズステートメントを作成すること

そこから自分の研究に活かせることはないか検討すること

【研修内容】

7月25日（月）

臨床医療現場観察のポイントとその手法について学び、「解決すべき課題」について感じたことを書き出して共有し、分類した。また、研修生それぞれの強みや思考方法について共有した。

7月26日（火）

抽出した困りごとについてその背景や影響する範囲と度合い、問題が発生する状況を詳しく観察・考察することで深掘りをし、本質的な課題についてグループとして重視する価値観や方向性をふくめて絞り込みを行った。

7月27日（水）

課題をさらに特定して本質を探っていくためにフォーカスするポイントと課題発生メカニズムを深掘りし、ニーズステートメントの作成に向け医療者へのインタビューを行った。インタビューを通じて絞り込んだ課題についてその妥当性や重要性を検証した。

7月28日（木）

ニーズステートメントの候補について、課題を解決することによる影響をステークホルダーや市場、競合調査といった視点から調査し、解決すべき本質的課題を特定した。ビジネスメンタリングで実際に事業に携わる方のものの見方や課題の考え方に関するお話を伺った。

7月29日（金）

作成したニーズステートメントに関して発表を行った。発表したニーズステートメントは以下の2つである。

- ① 就労世代で、糖尿病発症のリスクを自分事化出来ていない人の家族にとって、本人の行動変容を促し、就労中に透析導入しないために、透析導入による経済的変化を可視化する方法

② 約2年後に透析導入するクリニック受診中の患者にとって、透析のある生活の中でも仕事を続ける準備をするために、透析のある自分の生活を知る方法

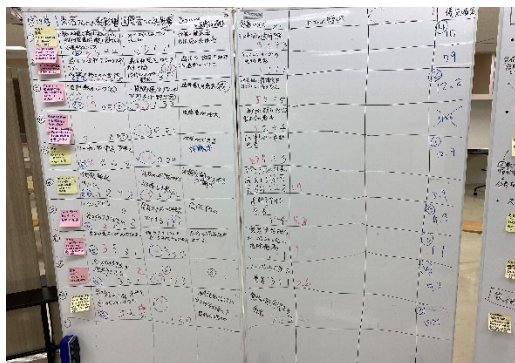
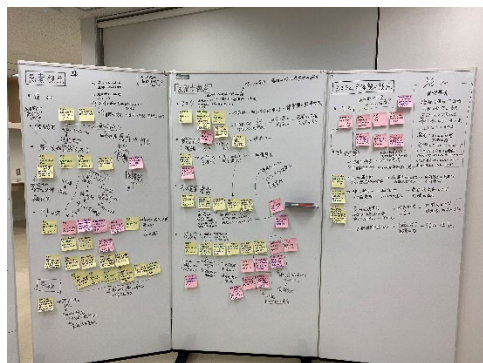
腎機能の低下は自覚するのが難しく治療が遅れがちなこと、治療の方法や頻度から患者の負担が大きいことが特徴である。このことからニーズステートメント①、②ともに患者の生活を重視したものになっている。

ニーズステートメント①

透析導入の負担を可視化できず人々が予防行動をとることができていない点を課題ととらえた。就労しながらの透析治療は本人のみならず家計を通じて家族にとっても大きな負担となる。その金銭的負担は平均時給で算出して100万円以上の収入減に加えて治療にかかわる費用が追加でかかることとなる。よって人々の生活にとって重要な課題であるといえる。

ニーズステートメント②

透析治療は通院回数や治療時間、食事制限など日常生活に多大な影響を与えるものである。また、腎機能低下の自覚症状の乏しさから透析導入が必要となる人は診断を受けた時点で急を要する状態であることもしばしばである。透析治療を受けながらの生活をイメージできないまま治療を開始することは患者は働き方など時間の使い方を大きく変えなければならず、それを考える準備期間がほとんどないことは大きな課題である。



【研修場所】

東北大学病院 血液浄化療法部

【研究や仕事に活かせる点・影響を受けたこと】

医療者や治療を受ける人、事業を行っている人の視点や考え方を実際に体験できたことで改めて我々が行う研究を改めて見つめなおすきっかけとなった。また、バイオデザイン手法、バックキャスト思考など課題を考えていくアプローチを学んだことで視野を広げることができた。今後、研究課題を探求したり新たなビジネスを展開していく際に、必須になるスキルを学ぶことができたと考える。

【来年度以降の改善点、授業の限界】

研修期間が5日間と短期間で会ったため、発見した課題の洗練や競合調査などにかかる時間が不足してしまったように感じた。また、今回の研修は3人中2人が医療従事者であったため、新しい視点での現場の課題を拾い上げることが難しかった。

デザイン思考を用いるうえで、現場の声を聴くことが重要であることは認識できたが、実際に患者からの声を聞く機会がなかったため、学生の憶測や医療従事者を介した患者の声を拾いあげるかたちであったこともこの授業限界であったと考える。

【まとめ】

東北大学病院血液浄化療法部にてバックキャスト研修を行い、現場観察・様々な方へのインタビュー・チームでのディスカッションを通じて課題を見つける際のアプローチ・考え方について学び、ニーズステートメントを作成した。医療の現状や異なる視点・考え方に触れ、取り入れることで未来の医療について考えることができた。今後、デザイン思考を自分のものとするために、さらに学びを深めたいと考える。